



中山名勝考

下

ル 4
3728
2





卷之二 目錄

出處

新書

新書

五原野

原野

松本

河

松本

河

松本

五原野

小松

松本

河



松本

門北生
卷 3728
卷 2

備中名勝考下目次

岡部

高岡

野部

笠原野

玉田野

千屋野

原部

松原

小松原

河部

細谷川

大井河

長良河

河邊川

川崎河

鳴谷河

早稲田大塚
25.7.5
藤

横谷川

河相

湯河

渡部

坂戸渡

掘井渡

小田渡

泊部

龜泊

瀉部

阿智瀉

碕部

巖碕

木錦碕

月守碕

池部

備中名勝考下目

菟原池

龜沼池

石井池

新田池

澤部

長足沢

淵部

縣守淵

屋敷淵

瀨部

鏡瀨

泉部

芳業泉

井部

松井

泉井

中井

福井

新菜井

財井

龜樹井

山井

田部

玉田

橋部

板倉橋

石隈橋

松島橋

森部

石手森

石村森

備中名勝考下目二

備中名勝考下

小寺清之輯録

岡部

高岡

阿賀郡中津井村に在

大嘗會和歌集に云

後一條院長和五年十一月二日主基備中國

已帳
十五頁

高岡

内藤禮頭善流朝臣為改

高岡子新志も志く高岡是社や一の村も若手海り水子

○松岡 未詳

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日皇基方備中國

志願皇章博讀後稷蘇武朝臣家經

晚冬松園多雪急密觀者

志願皇章博讀後稷蘇武朝臣家經

野新

○笠原野

下笠郡。過田村よ。笠田といへる所ありて。河色村よならびたり。これ

なる

大嘗會和歌集よ云

小寺野之碑繪

備中名鑑考下一

後冷泉院永承元年十一月十五日皇基方備中國

本願皇章博讀後稷蘇武朝臣家經

孟冬笠原有雪將人

阿波野の山にけしき世もまの河の結を糸のたよりをよむる

○玉田野

旧説よ。玉田村を川上郡。玉村と云。志願皇章博讀後稷蘇武朝臣家經

大嘗會和歌集よ云

村上天皇天孝九年主基備中國風俗和歌

玉田野

きいけりや玉田の野なる玉のたれをよむは代の事よむまら



千屋野



備中名簿考下二

系中よりつて記号つら記
とと里。今河より免つ。

新拾遺和歌集よ云

高倉院御時大嘗會備中園子

清輔和片

皇女も書けしもの玉の付かきくや豊のあつる歌らん

○千屋整 阿賀歌。実村
の内。千屋整。

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和五年十一月二日主基備中園

丁帖
七月
七帖
ちや整

内藤権以善流切為政

備中名簿考下三

秋風よあひくちや整の花も記中よ出てしゆふ君、万代

後三条院治暦四年十一月廿一日主基方備中園

前筑前守俊任在上皇系朝臣源衡

^{七月}千屋野秋花盛開 系中よ。至文字とねとをり。
今歌よよてたきなひつ。

君の代のちやの華はつるよやもくや民の心形あはれむ

原歌

○松系川上歌。二ヶ村よる。○この
考ハ。もてにあげつらひつ。

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和五年十一月二日主基備中園

甲帖
正月 松系

内藤禮頭善流胡片為政

まはららにじしある轉子世を那とあらひくわてそ君とあつた
才甲の白結。あらひくねてぞい。あらそい
かねての。あやまりまはりぞや。

後三條院治暦四年十一月主基方備中團

前筑前守從五位上友房胡片經衛

五月
松系樹下行人強駕

まはららにじしある轉子世を那とあらひくわてそ君とあつた

○小松系 下道郡。市場村よあり。○市場入道
山。南に禁なり。その取よある池

とも。小松系
池といへ

備中名簿考下四

夫木鈔よ云

大藏卿隆教

正安大嘗會所く名号 大嘗會和歌集よ云。正
安三年主基備中。

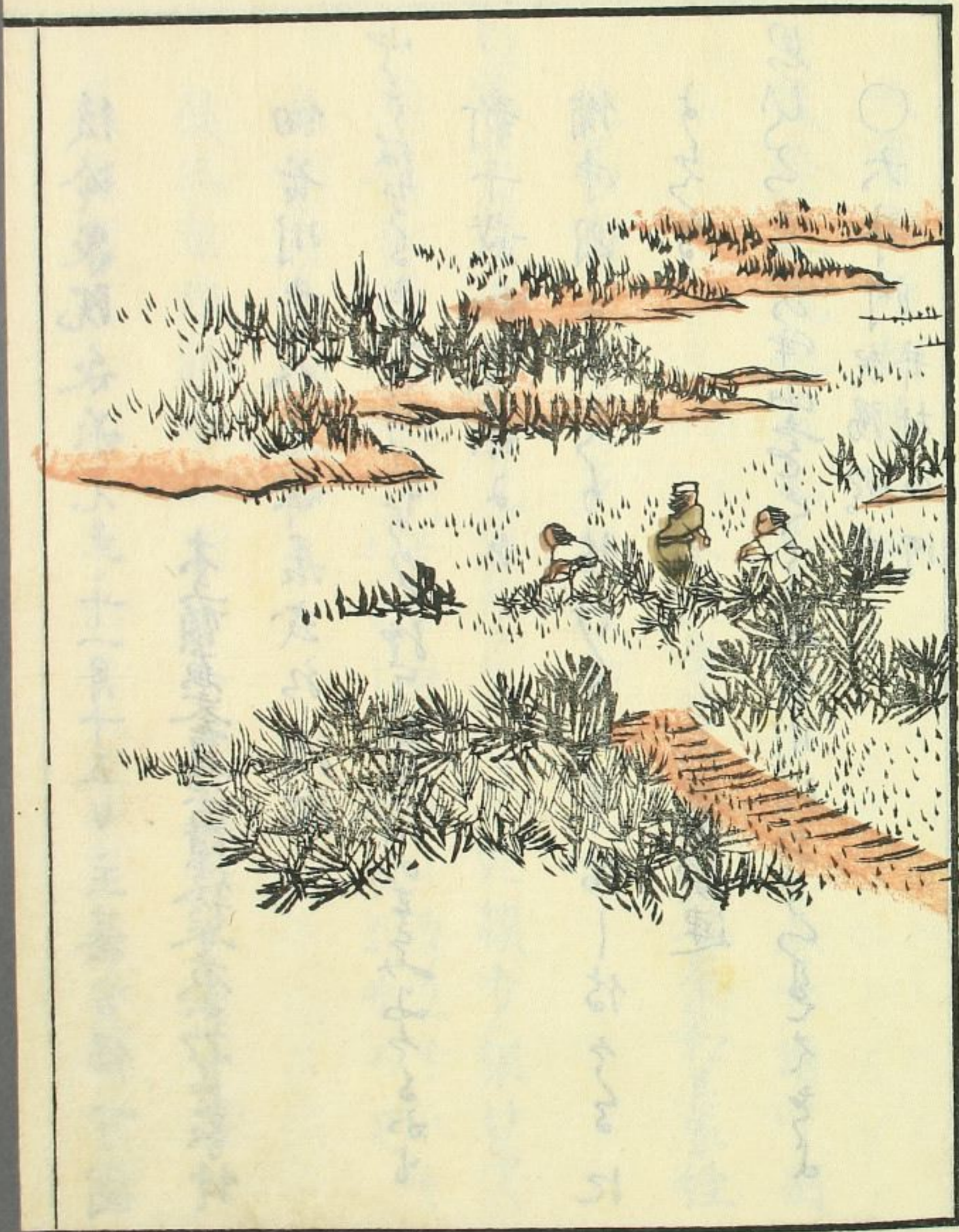
みり那る那の二葉を引きて小松系よ新葉字よつ

河部

○細谷川 賀陽郡。宮内村よる。
○中山の東よる。

古今和歌集よ云

まはららにじしある轉子世を那とあらひくわてそ君とあつた
大嘗會和歌集よ云



小松系

備中名務考 五

後冷泉院永承元年十一月十五日王基方備中國

本上頭惠重博士權佐檢校兼右兵衛督

細谷川邊人々群居或は清瑞

少くはなるもきむの中山なるくゆて細谷川のまふみくさるる

新千載和歌集よ云

備中國よくたり傳けり人々傳へ傳へるに

よきなり

三善資連

思ひつらむいの中山をくも細谷川は舟くつとせえきよ

○大井河

契陽郡大井村の河。

備中名簿考下六

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十六日王基方備中國

本上頭惠重博士權佐檢校兼右兵衛督

晩夏大井河邊多禊後取

以末字新のそ大井河のそりり記禊か架けり

○長良河

契陽郡長良村にあり。今ハ其地とて志る一とゆきふ井あり。

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月王基方備中國

長良河

前筑前守俊成佐兼右兵衛督

君の代にたつら河のあきまきく鹿形を存す即ちこれ

風雅和歌集よ云

正應元年大嘗会を基方屏風よ奈加良川岸

兼盛開行人汲下流 正二位隆徳

汲人のよきひあしそ七月やなわらけ川の草花よ

夫木鈔よ云

正安大嘗会 長良川 備中

大藏卿隆教

彦早終ちとるの末乃たわら川あきまきとの村も絶き

○河邊川 下さぬ。河邊村よ。○村の東と。かよりあよ流る。河をひりなり。

備中名簿考下七

大嘗会和歌集よ云

後一条院長和五年十一月二日主基備中国

丙帖 五月 河邊川

内藤隆政善流於長為政

ちをゆて一ふしきる河邊川名つをりたきし。那りる

○川嶋河 河邊川 の旧名

日本書紀云。吉備中国。川嶋河。派有大蚪。令苦人。

時路人觸其處而行。必被其毒。以多死亡。於是笠

臣祖縣守為人勇悍而強力。臨派淵。以三全瓠。投

水。曰。汝屢吐毒。令苦路人。余殺汝蚪。汝沉是瓠。則

余避之。不能沉者。仍斬汝身。時水蚪化鹿。以引入
瓢。瓢不沉。即舉劍入水。斬蚪。更求蚪之黨類。乃諸
蚪族。滿淵底之岫穴。悉斬之。河水變血。故號其水。
曰縣守淵也。

○鳴谷川 下道郡。服部村の鳴たよとゆふ。三
の音あり。西なること。セキヤとて。文字ハ。冥
音とかき。申なること。カナヤとて。文字ハ。令
と。鳴音とかきて。いふ音と。ヤとよめ。東なる
是の音と。音とかきて。今ハ。ナルタ。二の谷。此例よて。
ナリヤと訓で。きなり。け村。妹村。又む。ひ
て。河と隔たり。妹山。一月。又足。わた。た。さ。歌。
不。よ。て。歌。の。た。も。む。き。に。よ。く。か。な。ひ。た。る

備中名考下八

不なり。この卵は。妹村のあたり。ナリ
ヤトゆふ。ち。記名ある不なり。け考ハ。
わが友。音以燕。妹尾資禮。こと
に。た。の。れ。よ。わ。ら。ひ。一。形。り。

大掌舎和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十二日。皇基方備中因

本上頭。皇基方備中。皇基方備中。皇基方備中。皇基方備中。

妹山下有水。居其邊。即紅葉

秋。ゆ。み。あ。け。さ。な。り。や。河。ま。山。結。も。み。ら。を。そ。う。て。く。ゆ

○横谷川 小田郡。横谷村の川。不とり。と。吉井
た。是。バ。大。な。る。川。よ。て。ハ。居。合。村。中。と
あ。り。水。又。な。り。小。川。あり。これ。形。る

詰くたも中
ゆりたり。

大嘗会和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月主基方備中国

前筑前守従五位上藤原朝経衛

横谷川粟花多実

えり人のよきひの幸ききくは不横谷川よ今さつり

系中。結句の今
と。くはは保きり。

○河相 後月歌。川お村。○他の歌ふも。かそひ
ど。そみらて。字。美と。も。を。ら。と。して。河合と
かけら。中。川。に。古。文。字。つ。ひ。と。も

備中名簿考下九

れも不えど。この故。今ハ
後月歌なる字とれりなり。

大嘗会和歌集よ云

後一条院长和五年十一月二日主基方備中国

戊帖
辛月 河お

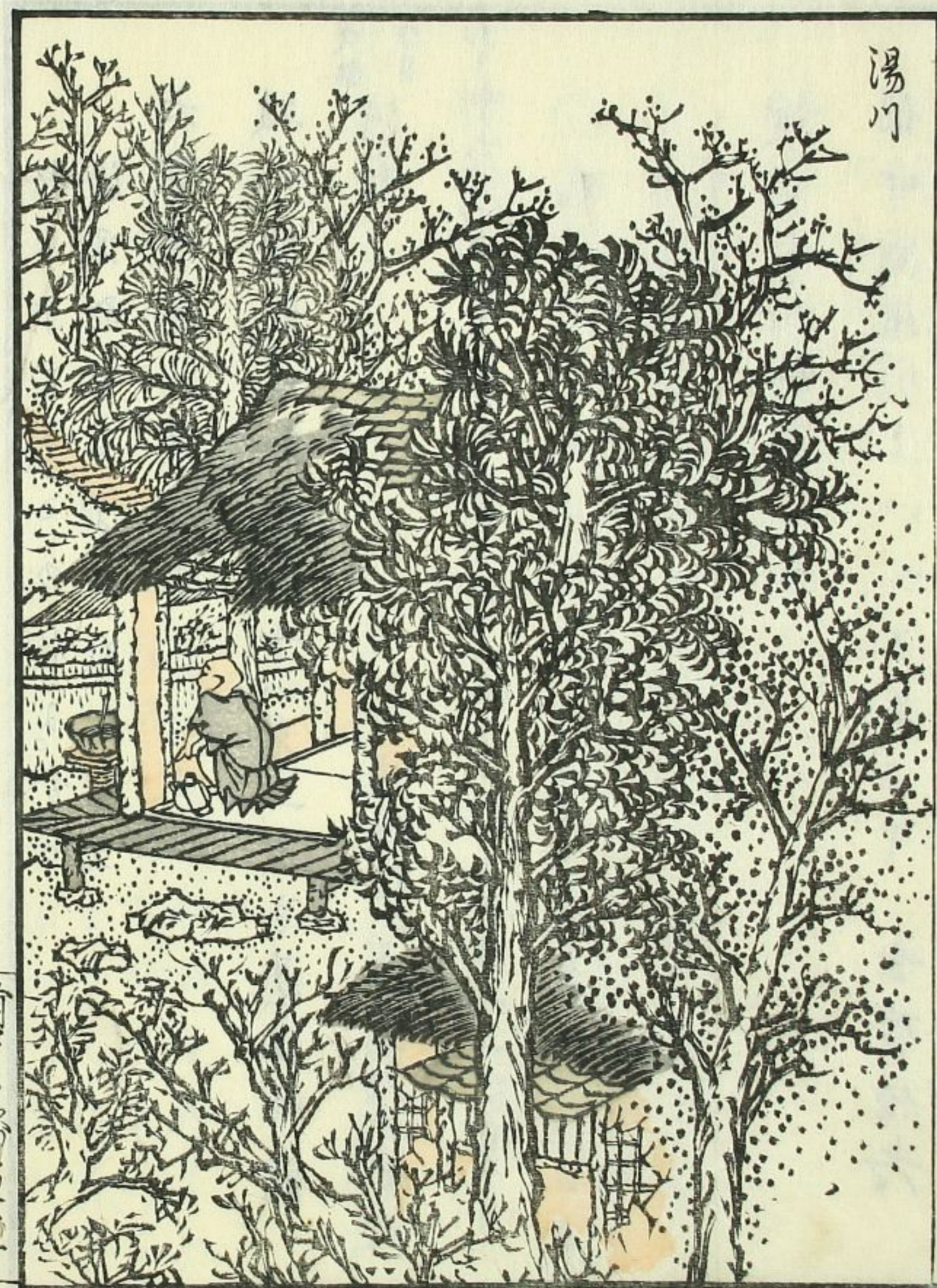
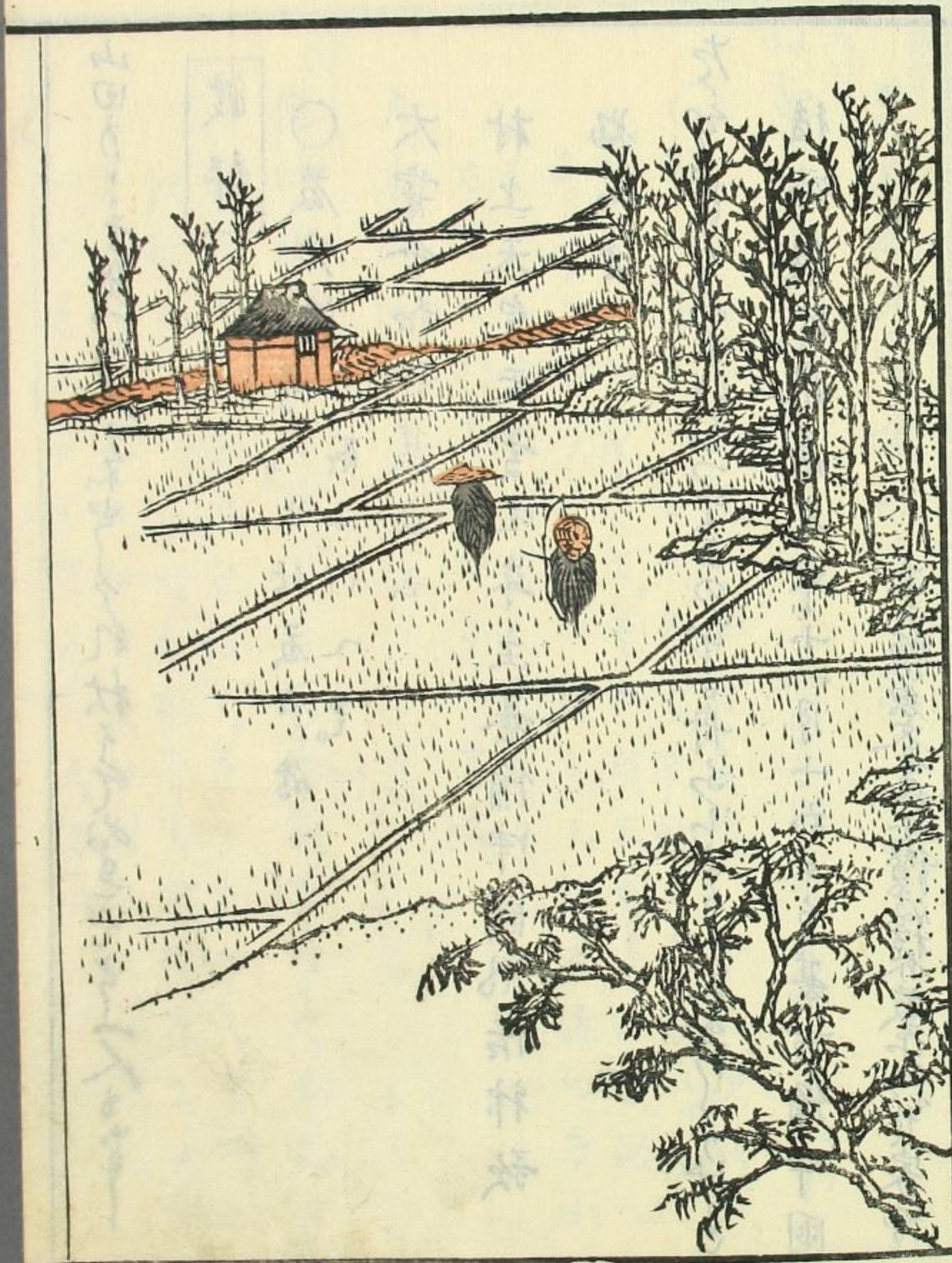
内蔵権政善流知方為政

ちやたらのわいひのあはなれていふら船と舟のあふれ也り

○湯川 阿契歌。土橋村あり。○歌。川。よ
先。に。そ。あ。ら。げ。ま。ど。も。は。一。書。に。よ
りて。こ。に
ものしつ。

續古今和歌集よ云

備中国湯川といへる所よて 玄實僧考



備中倉橋考下十

山田のそとりの月とあやうされ杖をてぬきとて一人の

渡部

○菟戸渡 考ハ。上は菟戸傳の取よいこ也。

大嘗會和歌集よ云

村上天皇天夢九年主基備中國風俗神歌

婦らと

たむけくあまはむつまよのち。舟あはたりしぬ出りけり

後冷泉院永養元年十一月十五日自基方備中國

本二願文書持主譜後松原系於他家經

備中名簿考下廿

乙帳云 善喜菟戸有系船見之密

けふさけち立しはるも紫く子あもるりあつり形られ

○小田渡 小田歌。小田村よ有。○今の歌路ハ。

とあこりて。き出村。本え子村と。西こ

申さし形り。いつの流つまか

夫木鈔よ云

備中國をたの波と云取を教事のくま之と

系本よハ。をたを得て。をくとちり。本州の

と有て。け嘉云々の歌を引つれ

バ。こまふよ取てあつた免つ。

大江嘉言 け々。射る
守又て。下
られし。物よ見ゆ。その時よ。け
歌とまて。よみたまへる。

有明の月よ花もつくと出ぬまをさるるに居そ歌とまる

○榎井渡 下道歌。園田よ。○け村よ。けくら
からぎ。是なるべし。堰の。井よかよ
ふ事ハ。下の井、歌よ。あげつらへり。

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和五年十一月二日之基備中園

甲帖
二月
榎井渡

肉飛槍段善流歌片為政

さくらねふのけり重と家またにありまのまをそをそ又る

備中名簿考下三

泊歌

○甕泊 後口歌。毎山村よ。○け所よて。むか
た。と。瓶とつくと。瓶山といへる
も。そ。姑よ。けり。今ハ田畠とすれり。

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十五日之基方備中園

本立願聖文章惜士續法信林及系於后家経

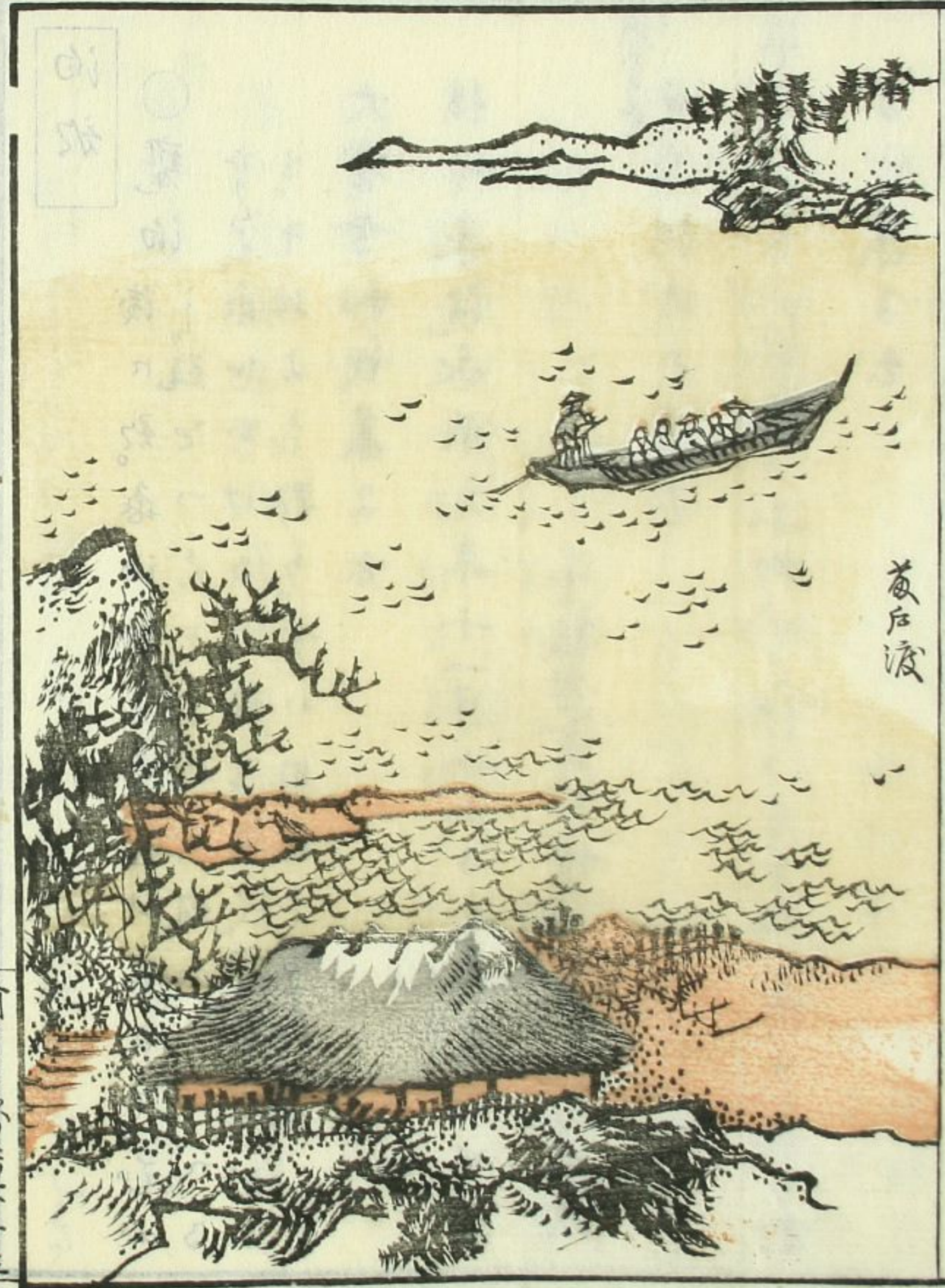
退生考
毛存ひのと海里

はらひつむりひの海り舟あしとけとそをぬと片と物の歌

万代集よ云



後戸渡



後戸渡

脩平名考下十三

詩歌

○叢詩 契陽歌。言塚村の事。

續後撰和歌集云

仁治三年主基の風俗等石詩

前中納言經光

末幸の時代のけしき久しきまの二奉納の石詩乃松

大嘗會和歌集云

後冷泉院永承元年十一月十五日主基方備中國

集入考
叢詩 木下政憲文書博士備後守後原系朝長家經

備中名簿考下

若き日の山よむきあるまの形跡はくくくは時代のけしきなりたる

○木綿詩 淡口歌。大谷村より。○考ハ本社歌といひり。

丈木鈿云

方宰相にて下ける時 大卦を遠郷

柿の葉のうらうらとてに記す事といひてそのかゝる本歌詩乃松

○月出詩 小田歌。柿の葉につける字等の由。拾出詩なるべし。説ハ上といふ。

大嘗會和歌集云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

十五月
月出詩有系舟人 前筑前守後五位上原系朝長經衡

友系池



友系池

ゆりちよ月出待より人そ曇り物さるやうれいあふ

新拾遺和歌集よ云

高倉院御時大嘗乞所屏風笛守國寺

清輔

をうふくと曇り物さるやうれいあふ月出待はあまの月舟

此歌を類字名取和歌集と藤垣系と近江
國の月出待の歌とを誤なりと
主基くあふうと又
笛守くさへ河さものと

池部

○藤系池 下道郡久代村
の内は西里

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永承元年十一月十二日之基方備中園

栗意
藤系池 本立原文系物土讚後藤系藤系藤系

あふと結さるゆけ池のあ清み玉藤よかり結杯ふあけりさ

○飛鳴池 後口郡飛山村よ有。○け村よ。東よ

たる小山あり。それをまへ。飛山といへり。
毛とこに。飛社。社前。社前。社前。社前。
て。今。八。古。家。と。ま。う。村。人。は。あ。り。の。山。と。
道。と。法。石。と。池。あり。村。人。は。あ。り。の。山。と。
志。ら。ぬ。ど。も。む。か。が。ら。え。り。そ。の。山。と。
ふ。ら。ひ。う。き。け。が。ら。え。り。そ。の。山。と。
に。池。た。り。昔。ハ。廣。か。ら。え。り。そ。の。山。と。
に。池。た。り。昔。ハ。廣。か。ら。え。り。そ。の。山。と。

るべくれも不ゆ。今も。誇おなき。あまて。秋
のたもむきにも。よくかた。一里。同形。連語
も。飛鶴。てふ山。おれども。池。な。一。上。昔ハ
備前國。見寄歌。老。陸。々。なり。一。取。な。ま。と。以
ば。説。も。あ。ま。ま。

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

飛騨池上有鶴

前筑前守後位上皇系物片経衡

かきまは池よきくまじまの鶴ハ久し紀友とありふる

○石井池

浅口池。深田村。一。二。井。と。い。ふ。取
あ。り。て。そ。こ。に。池。と。こ。北。なる。

大嘗會和歌集よ云

備前守後位上皇系物片経衡

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

石井池

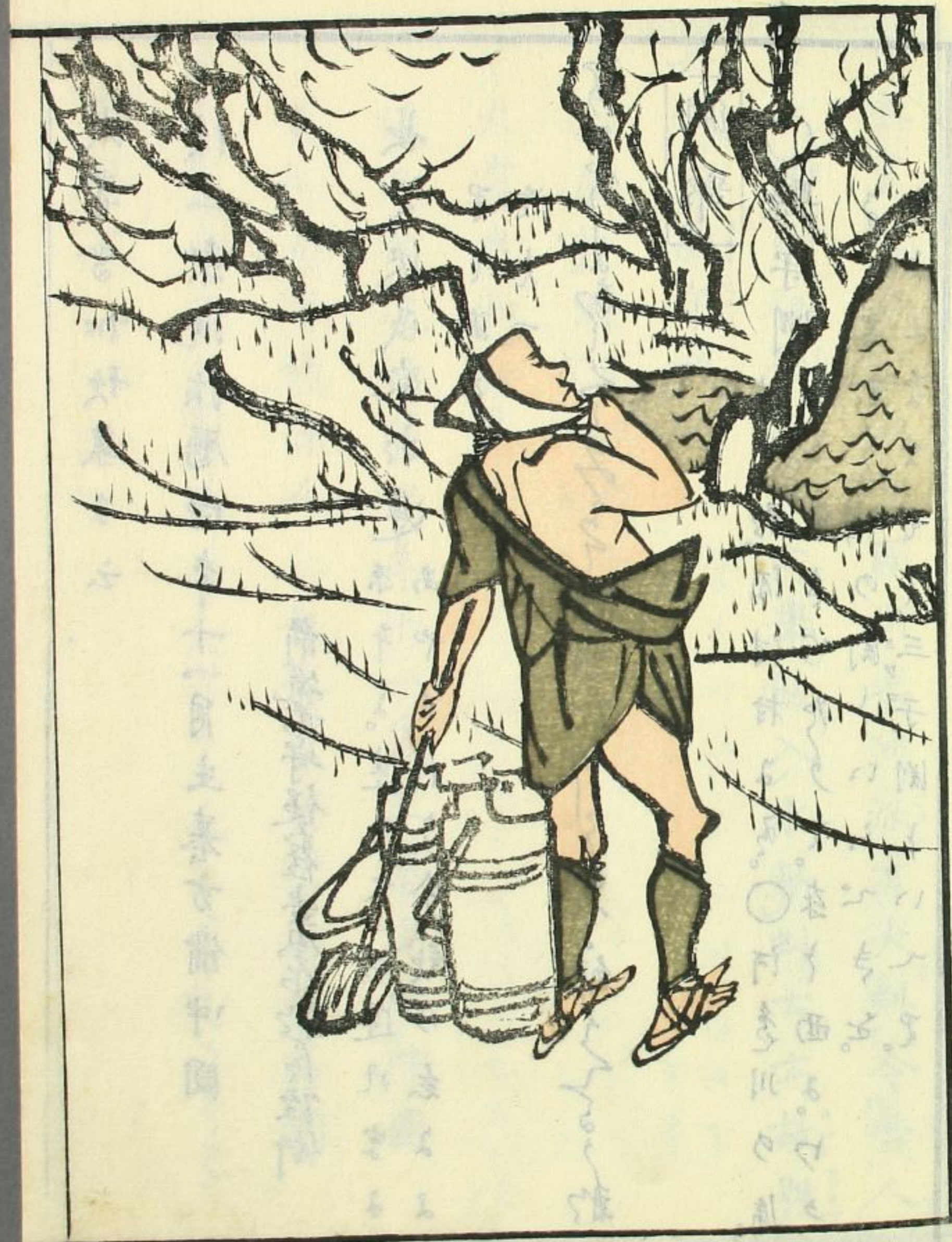
前筑前守後位上皇系物片経衡

あまのりかきまの池は久し紀友とありふる

○新田池

小田郡。入田村。よ。ま。○新田と。い。ま
入。田。と。か。け。る。ハ。文。字。の。た。や。ま。れ

例え。和名。抄。に。上。野。國。の。郡。名。但。馬。國。城。崎
郡。結。郷。名。備。前。國。和。氣。郡。の。郷。名。マ。新。田
多。布。と。あ。る。に。因。じ。志。か。ら。ば。ニ。フ。も。古。云
た。れ。バ。歌。よ。も。ニ。フ。と。よ。む。び。き。ふ。く。そ。と
い。ふ。人。も。あ。る。也。び。け。き。ど。歌。よ。ま。大。む。ね。詞
と。正。し。く。之。や。び。や。ク。に。よ。免。る。も。の。那。り。
ニ。フ。と。い。ふ。音。便。よ。て。正。し。か。る。は。夕。と
ゆ。免。る。た。り。け。例。ハ。越。中。國。新。川。と。万。葉。集
よ。免。る。た。り。け。例。ハ。越。中。國。新。川。と。万。葉。集



新田池の池



新田池

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

前筑前守從五位上友房兼右兵衛

長足沢民家お連

系平よ。連の字と。運は字よ
あやまれり。今歌の念よ

里て。あら
たえつ。

たのまきよあきくまらそは民のたのまきよ結をくまらそ

淵部

○縣守淵

淺口郡。酒井村よ。○河邊川の流。
山よゆさりたりて。東よ西よ。ワ
る。夏那り。蚪の淵といふべきを。
今よこなまき里て。三子淵といひ

備中守友房兼右兵衛

日本書紀云。吉備中國川嶋河派有大蚪。令苦人

云云。笠臣祖縣守云云。舉劔入水。斬蚪云云。故號

其水曰縣守淵也。

○屋敷淵

小田郡。西三
成村よ西里。

大嘗會和歌集よ云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

屋敷淵有納涼人

前筑前守從五位上友房兼右兵衛

友房兼右兵衛の屋敷淵に納涼する人よ

瀨部

○鏡漱 川上郡佐々木村にあり。

大嘗會和歌集に云

後三条院治暦四年十一月主基方備中國

鏡漱 前筑前守從六位上兼右朝臣經衡

限中紀典に於てありしに、ハト之鏡の所を之かけ字まはるる也

泉部

○萬葉泉 哲多郡。矢戸村にあり。○上の万葉。

大嘗會和歌集に云

後一條院長和六年十一月二日主基備中國

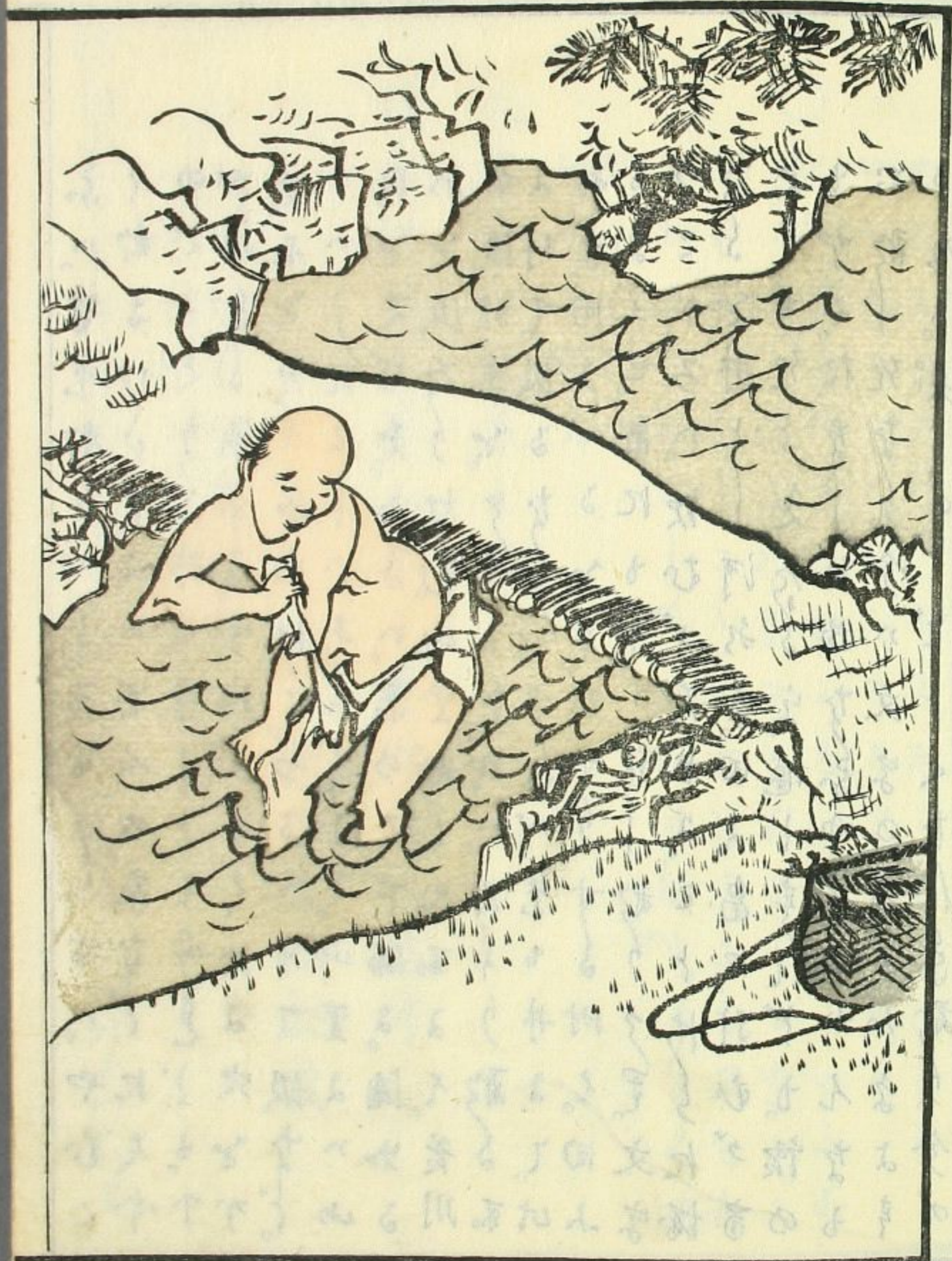
已帳
十五頁 萬葉に泉

内藤権頭善滋親於為政

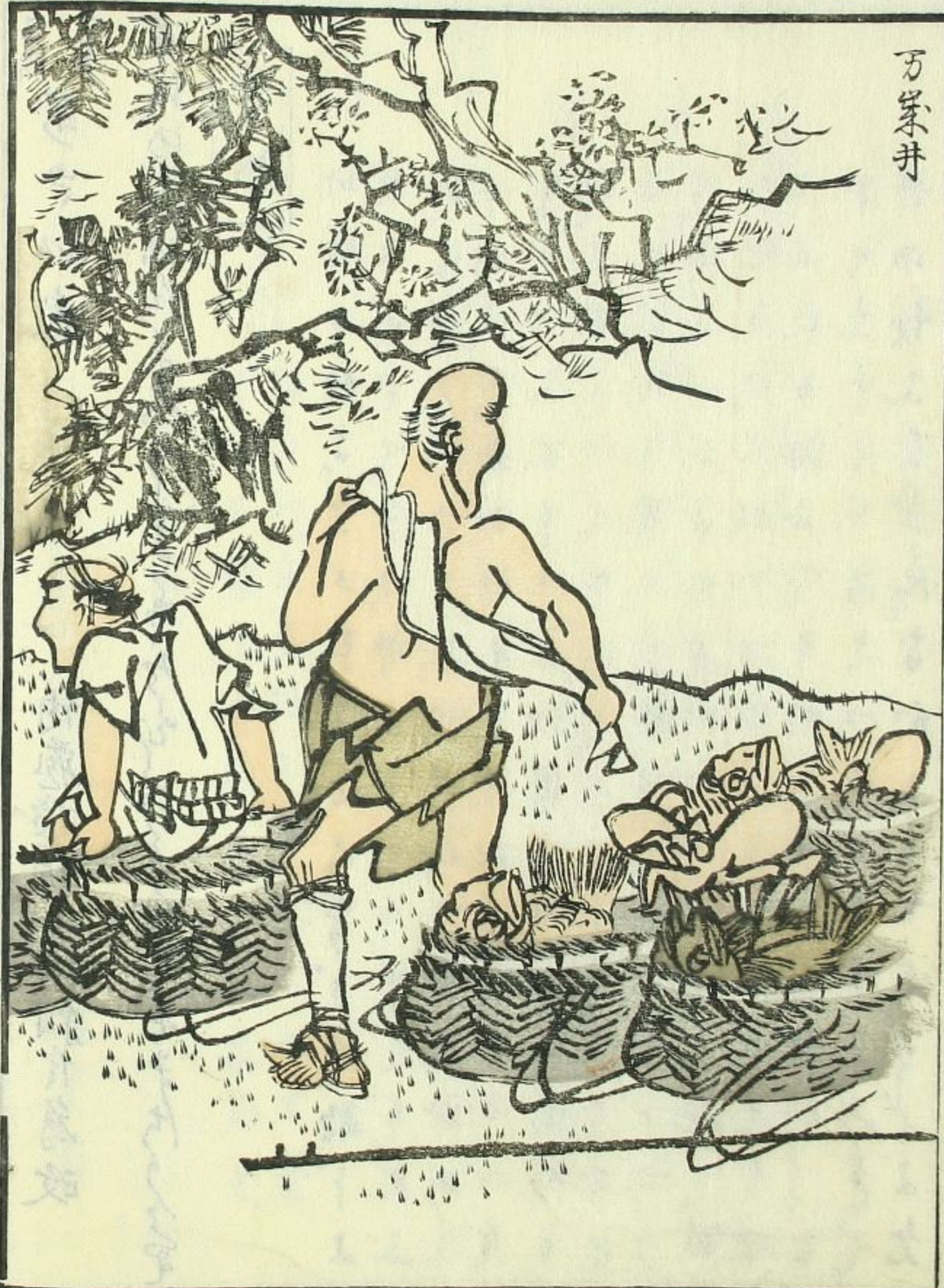
万代の泉結糸のくまをたむけし世をまはるる也

井部

け初めの歌に、なぐさ。とく。なぐさ。船とよ
先るありて。今に井よりしてハ竹えむ。思ふ
に。くささいつこえ。後月砂。井系村あり。
そ村に。井森。竹林あり。井結。井のハら。
なごいふ。その河筋の村名に。吉井。与
井。支村に。つく井あり。そのあたり。き免
る人の氏に。井上。井根。井口。井本。などあり
て。井といふ。井の多かると。あやしみて。思
ひ見るに。これハ。河のべなる。不なま。堰
よよれる。細くて。それと井より。用ひ。な
まぐさ。くさ。えつ。是よ。りて。みま。な
井の歌に。なごさ。ながる。せく。なごよ。な



有子
下
三



万
家
井

ふハ。皆是歌るべし。そのハ。古ハ。やむこ
 と歌るつゝ里。又ハ。雷人の家やぐに在。今
 のごとくある井也。其ハ。と云。ゆきと。今
 ざほなる家もろ。今結ごとく。地又穴を不
 里。石とた。みあげて。つるべもて汲す。さ
 さか。し。れ。こ。ハ。あ。ら。ぎ。て。山。里。又。ハ。山
 陰とくぼ免。あ。る。ハ。岩のえざ。満。み。山
 水と汲たりけむ。山里歌らぬ。取。え。谷川
 の流結末と。き。れ。と。免。或。ハ。た。り。取。る。取
 ぶ。引。て。汲。る。な。ら。ん。さ。れ。バ。是。も。井。よ。て。け
 水。字。田。う。い。る。を。里。ひ。で。り。す。る。時。も。田。よ
 も。ま。う。せ。島。に。も。そ。の。た。り。す。る。里。文。字
 の。こ。い。ろ。ハ。飲。む。が。た。め。も。こ。と。け。ら。に。橋
 た。と。と。井。と。河。水。字。田。よ。島。に。引。む。が。書
 免。了。と。免。と。免。た。る。字。堰。と。ま。れ。ど。も。語。の
 も。ゆ。え。た。な。り。物。な。る。ゆ。え。も。か。ん。な。も
 お。歌。ど。た。な。り。今。ハ。文。字。の。み。も。公。字。よ。ま
 る。歌。も。疑。も。め。い。ご。と。く。な。る。家。歌。り。今。の

五十一

○松井 密屋歌。上林村。よ。○松井といふ所
 世に。井戸。何とも。又た。ぐ。ち。も。何とも
 いへ。る。ハ。古。の。細。結。の。こ。り。も。歌。り。
 松井 密屋歌。上林村。よ。○松井といふ所
 よ。里。取。り。な。し。ろ。ハ。右。の。府。又。意。く。又
 ふ。も。近。き。取。に。し。て。井。結。き。海。も。多。る。之。所
 や。し。く。た。も
 不。ゆ。る。歌。り。

大嘗會和歌集よ

後白河院久壽二年之基所屏風御中

藤原茂明御歌

この歌は結。茂の字と。
 八雲抄よハ。令とる。

結いあくる。す。た。お。結。の。を。ま。ま。う。つ。つ。ハ。君。の。あ。代。結。つ。け。か。も

新古今和歌集よ云

建久九年大嘗会至基屏風に松井

松井納言實實

少きはなる松井納言實實の系とてそふ代を思ふ

○泉井 未詳○は井の多ハ。人々おのくひき

井戸とあり。井戸鏡乳穴神社もれをくして

よしあり。井のさほも。えきくあや一記

井なま。下さ那の。有井村の。わだの泉川上

那。小泉村よ。家より涌るもの。は二の井

はくめでた。小田那。吉田村よ。イヅミト

となくまきる。ふあり。されど今ハ井なり。

いづきともしさ

が史がた。

大嘗会和歌集よ云

後三条院治暦亨年十一月至基方備中国

泉井 前筑前守從五位上兼京師左衛

國郡今そはくえいし泉井はさみの飛代りき書えし其のハ

○中井 行實那。中津井村よ。考ハ上よいこ也。

夫木録よ云

なのお 備中

あしをさるるを備中つわのたのすおたの年種るる歌

和余雅。松葉集。秋原是なり。に。は歌を引て。

長井くともて誤なり。中州よ。長井といふ

道。秋の意にもよ。かなひたる。不。新。り。
是。を。縮。井。な。ま。と。い。こ。る。説。お。き。ど。も。縮。井。
ま。ハ。あ。る。ご。と。か。ら。ぞ。さ。れ。ど。ど。に。か。え。よ。名。
取。な。ま。ご。と。く。國。人。い。こ。る。不。な。り。志。か。ら。
ど。時。堰。わ。が。國。又。て。こ。と。に。大。な。る。堰。ま。
て。國。人。の。た。か。ら。と。た。り。よ。山。を。井。山。と。名。つ。
け。る。ふ。ま。の。う。堰。の。上。なる。山。を。井。山。と。い。
こ。る。そ。の。山。に。あ。る。寺。を。井。山。寶。福。寺。と。い。
こ。る。た。か。ら。井。と。い。ふ。よ。い。あ。ま。り。あ。ら。ひ。な。き。
ど。等。法。寺。と。い。ふ。と。た。さ。な。り。あ。げ。つ。ら。ひ。な。き。
み。ま。な。ん。

大嘗會和歌集よ云

村上天皇天養九年壬基備中園風俗新歌

そから井 稻春系中よそから井とあり
今歌よよきてあり

まむは國たうのを記てうき田のまらおかよよおひあくらか

才二の夕結。た、らわとれてハ。
た、らおせれての誤なり也。

後冷泉院永承元年十一月十六日壬基方備中園

樂破 財井 本立良家傳士譜波控外及系抄長家傳

よえ法代の敷よそつもんたうお結なもはも、わきよみあもき

系中。才四の夕結。はの字と
たくと見。今おぎなひつ。

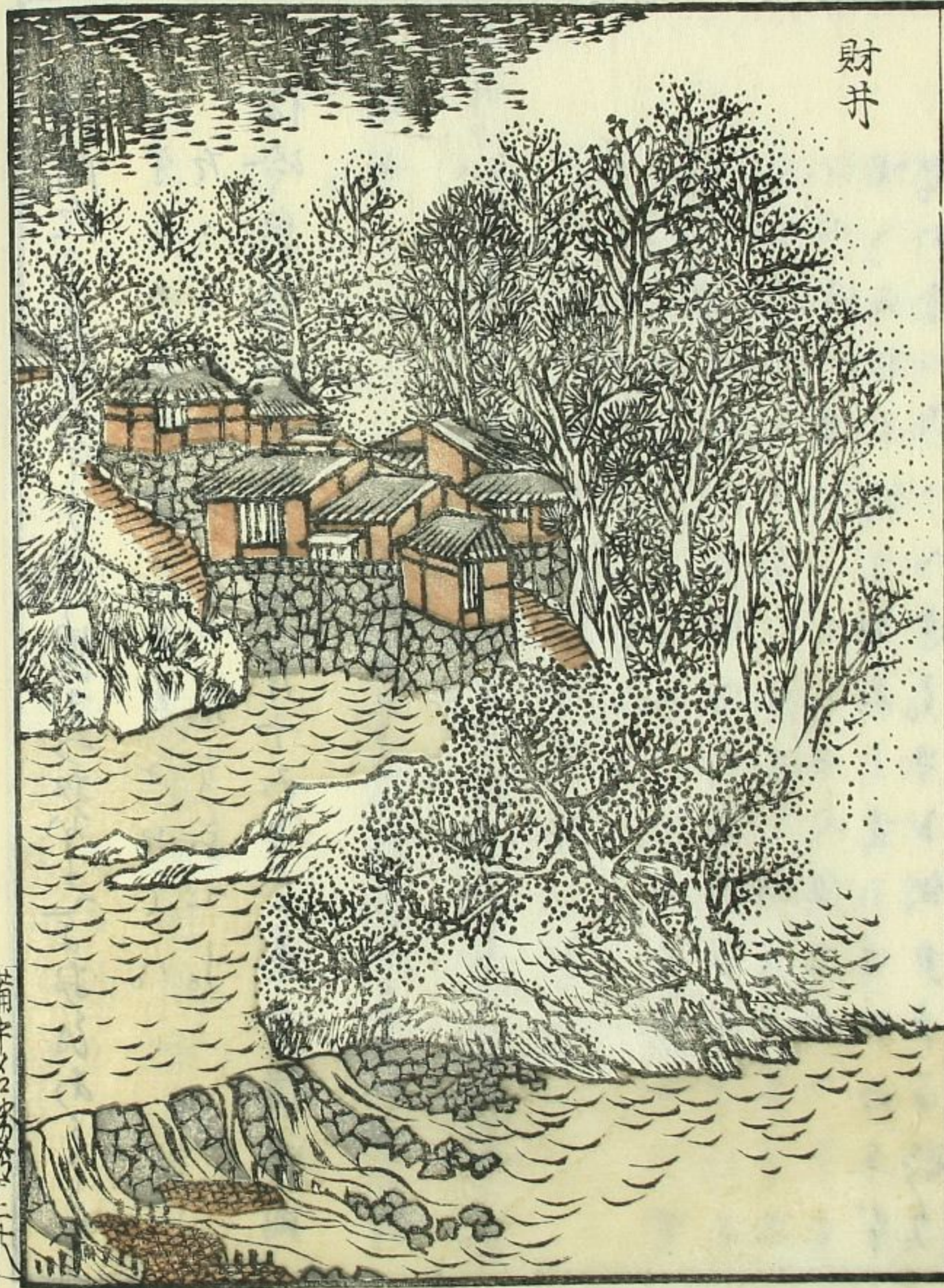
○無樹井 未詳 ○ころ、ろにいそんまハ。賀

和。ま。そ。し。つ。毛。と。ハ。無。本。と。訛。て。上。本。と。た。
己。や。ま。く。書。つ。る。と。好。の。人。誤。て。少。へ。キ。と。
唱。こ。又。好。ま。誤。て。極。本。と。書。し。に。キ。あ。ら。ず。
や。か。な。ハ。た。が。誤。て。是。と。さ。る。例。多。き。る。形。

江島山画



財井



こそ國人のつゝたる歌よて。おのれい
まぶかたる物と名ぞ。山家集のふかよ。
といふ説とすたきど。たのぐもろふかよ
ハナ。そはうて。西行の口つきよあらぞ
たもかゆきぞ。あばらぬことと。志とたまふ
一を實の歌よ。あらぬことと。志とたまふ
人あらぞ。あまふ。た
まへけづりらん。

田部

○玉田 川上歌。玉村。○歌の下よ。下さ歌とあ
口つれたるは。中む。そのみえ。
下さ歌の内なり。歌なり。

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和ふ年十一月主基備守國

稻番

たまふ 下さ歌

内務省長善流歌長為政

年えつふふ田の稲をわけつゝとて代のたふ。よはるをけり

栞部

○板倉栞 賀陽歌。板倉村よ。云。

大嘗會和歌集よ云

後一条院長和ふ年十一月二日主基備守國

板倉栞

内務省長善流歌長為政

丙帖 五六月

君の代はつゝの栞をふのこころに。これ年を待たつ

後冷泉院永承元年十一月十五日主基備守國

大嘗會和歌集よ云

後一條院長和五十年十一月之基佐中園風俗

^{樂破}石隈檜

善滋報片為政

よんつせしちをのりふの代を思ひそりたるをまよはし

○松島檜 考字類。松島村よ
り一檜なるべし。

大嘗會和歌集よ云

後冷泉院永長元年十一月十五日之基方佐中園

本上原夏章檜上備後松島系松島家經

孟秋松島檜多往及人

り人のふれしちを結物杖しひのそりたるをまよはし

森部

○石手森 下道歌。过田村の由よ。石田と。森と。
なりびたる地各あり。手森と。園主

社あり。一むら此森の内子たえ。是石手
森なるべし。○石の。イハよかよこる訓ハ。
凡例よいこ。テと。夕と。かよふも。考のこ
と。和り。又園主と。今ハ園目とかけまど。誤
なり。この考ハ。別巻よ
あけつらひた。里。

大嘗會和歌集よ云

後一條院長和五十年十一月二日之基備中園

^{乙帖}石手

内藤檜政善滋報片為政

子りて石村森子まじりていひて治まらば代子

○石村森 上房郡。岩村にあり。○叶森。本州にあり。子。物にあり。○これど。文保の度。石

村にあり。又永兼の度。石村にあり。叶國の名。不なる。子。志。る。傳。

井睦抄に云

後醍醐天皇文保二年主基 己日樂破

隆教

道ありと本流りて葉の字はまじりて石村代子といひて石村

備中名勝考終

○もろくのの名取を集たる書と。國人の記

したる物どもに。名取とある所あり。取

る字。今此に毛らして。とらば。石。急。字。あ

らあらとるん。

○衣笠園 衣笠山

これえ。山。採。園。の名。取。よ。て。名。言。さ。不。なり。志

か。る。字。こ。の。笠。忌。と。衣。笠。忌。こ。の。山。字。衣。笠

山。なり。と。ま。る。い。ま。ひ。こ。と。取。り。毛。ろ。く。の

書。子。本。州。なる。事。を。ま。る。し。た。る。物。取。類。字

名取和歌集よ。未劫と云といへども。志から
ど。其書よき。山城とのみあやして。未劫國の内
よきなりことなり。

○祇園

是は山城に。いちどる記取なるを。藤原
よ備中よ同名ありといへるにきかりて。け國
にいとむるいひがるなり。け地名もなり。説
歌字も見たり。

○祇園山

和余雅よ。け國の名取と云るハ。
誤なり多し。け地名もなり。説歌字も見たり。

○春日村

藤原系よ。丹後但備中。とあるよよ。中
にいとむるハ。むがと云り。夫木抄よ丹波と
あふわと云るハ。或ハ丹波なるハ。和名抄よ
春日 加須 とあれバ。ハルベとハ訓べらる。
といふべし。地名の古語訓よかえれる
ハ。例身事なり。たとへバ。後河國の和名。益

津と。ヤキツなるを。和名抄もづに。マニツと
記もあつごとし。

○あー記の里

藤原系。あーき記里 同右。とて書初の次は
ありて。丹後とも。佐中とも。あられぬを。やが
て此國よ。さぐりもとあるハ。誤なるべし。

○鷲尾山

とやうなる鷲尾山の玉桂を新字をふるもさへかへり
け歌を引て。此國よありとするハたがへり。

○この秋ハ。新古今集よ出て。寛治二年大嘗会
悠紀方を江國の秋なり。夫木跡ふ也。秋麻之
にも。色江の名不とせむ。

○官言山

是字。此國の名取として。

云々御官言山の官言山と記すもほよろつ世
といふ秋。藤原系よとて。たづねもとある
ハ誤なり。藤原系よき。かへりけうねひの
言よ高松と記す。とのさき。言

山といふも。あつゝ又見えぬ。或る處とて傳へ
たれど。それをも。藤垣系とせしことなり。

○石畳

是ハ何づくふもあれ。義の多くかさなりたる
と。いふ云よて。定まれる所の名も何れ。萬
葉集の歌を引て。石畳神社の事とあるハ志
ひことなり。此神社よりある歌。萬葉集よ見
えぬ。

○引野

引野といふ所ハ。國々にあやう。系地名なり。
そは所ごとに。あるしもなくて。名所とすべけ
むや。

持ら引野のつらあつゝいふ歌あり。人よことよ志けん
此歌を引て。此國の引野。といふ所の事なり
とすも。ひがごとなり。此歌ハ。古今集よ出
て。みろぐ。を江の采女よ給へる御歌なり。
契沖ハ。河内よありといへ。里。いつこよも何
志。近江國の内なるべし。近江國よ志よて

とあるべし。古きより形に。ことしは子
孝と國了りて免出で。名不字よむるい。き出
甲し形り。藤塩系。類字名不和歌集。なごまは
け歌を引てき波とま。

○子田村

和尔雅み。中州の名不とまといへるハ。たご
一里。其書を見ると。未劫の内子何也。

時よりてちと村人といふは。早苗なるとん
この歌を徳歌に引れど。是ハ新拾遺集に

出で。け國よある。取まよ免る。といふよ里不
す。八雲の抄よえ。紀州とま。類字名不和歌
集よハ。未劫とま。

○雄琴里

是ハ。道に國よある名取也。仁治三年大嘗会
悠紀方所屏風の歌。雄琴郷 松霍幸々

辰原為長

松風も鶴もあそびの喜まき也をことの里能秋のう歌く
保安四年大嘗会悠紀方の歌 敦光

松風の音を結里よかよふとてはまの世の素心
け歌ハ。金葉集よ出て。悠紀方ハ新日の里と
よ免る。といふ歌の次よ。のをたる故よ。悠紀
方といふことと。およゆづりて。こ結歌よき。
たぐ。己日結樂の破よ雄琴の里字よ免る。と
あり。け國なるい。ま基方結雄琴里とよ免る。
たどぐ。ことつふごき歌り。延喜の御代より。
悠紀方ハ近江國よ。けづ免る。け事なり。む。
是ハ色江國の名取たる事ゆらう歌り。和示

雅。和葉集。秋篠是。新字名取和歌集。小鏡。なご
く。佐中とある。う歌信なるべし。

○勝間浦

け國よけ取なり。け國よあふごきよまごこ
ろも歌。たま。和示雅よ。此國の名取の内
よ。のきされども。そ下よ。佐波歌と記したり。
これ。周防ぬの歌名よ。け國よあは。是よ
ても。信なる事をよ。新字名取和歌集。
名取於類考。方角抄。なごり。う歌未劫と何

るやうに。

○船本山

け國よ何とぞ。名あとするに。あはごと歌り。
後拾遺集よ。

けの船よ舟本の山にけしらすの秋守とれしかきさるん
とあると別て。能とまれし。類字名集よ。
け歌。美濃の船本山の歌とぞ。夫木沙ふも。
美濃とす。藤垣某よの。道江と何と。とにかく
よ。け國の能歌よ何とぞ。

○福徳山

けの船よ下月あまの山田よ田よよとぞとぞ
け歌ハ。元九年大嘗会。皇基方の歌よ。け
年ハ。皇基方丹波よ何とれ。藤垣某。夫木沙。
松葉集やどふ。を白又と何とハ。能歌り。秋葉
是よも能たり。け國よイナブサ。とりよ取の
名も。山の名もや。和歌雅ふも。け必の名所
此内よ入るん。藤垣。夫木。やどよほとへる
やるべし。夫木沙ふえ。け外よ。ふたつ。み山
上二

け歌あまの。哉中国倭波歌の雄津川の歌な
る事。明らかなり。まのふよ。此國の雄津川に
説とす事。大方る候なり。八雲御抄も。和
示雅。秋寤気。形どふも。と歌歌中とあり。た
藤垣系よ体中。と候るハ。歌を備よ書あやま
里たるもの形り。足次神社の事よ。引つくる
もたつ。里かの歌註注よ。葦附水松之類。と
あり。水邊よ生る菜の事なり。社よと里あえ
きもるえ。謠なり。ぐや。ま。社号ハ。アスハと

備中名考附八

よむべき形り。アエツギと今いふえ。ひがこ
と形り。於別巻コトフミよ。くそくあげつらひたり。

○轟檜

かく名つけふ檜。法園よ多し。藤垣系よ体
中。と名といへるいたがへ也。逆江とあり也。
爰ふる玉ゆりき急て見るなり。志りあふとるまの檜
け歌字。後よ引しれども。秋寤気よ。大和園の
檜け歌とあり。

○夕船山

山にの音よりつく文新山月さくあふや〜結くれ〜
け款字。出取不知紫式部として。他款より
ふれども。うけられど。け款はと見えく款也。
けの形多年の善ふ。夕月結出つるよや。是
としも。若女け款とする。款とよ物とあら
ぬ人の志と也。そのうへ。かの下意款の
今。夕款山ぞ。といふ山よえ。伊與款明神と中
社ありて。古き書よえ。伊与款山。又。伊世款山
とも書て。イヨベ山形り。ユフベ山又形〜
備中名簿考附九

○窪山

是字よ知る古款あり。よ里とこえよ引〜
子我集あり。窪山と何る形り。

○長田郷

長田山ハ。け國の名取なれども。郷ハ名取子
何らだ。新古今集也。

新代より〜の〜や屋つ〜に長田姓編を志あり〜
とけふ款字引〜れども。け款ハ。仁安三年大
嘗會皇基方編春尋丹波西長田村字よ知る

とありて。うたがひもなく。丹波國の名所也。
志うふよ。國を備中國。村字郷と書かして。壺
囊鈔よ出づりとせるハ偽なり。彼鈔よ。丹
波西長田村とよ免るとあるなり。

○銀山

懐よりけしうねの末廣く業をゆく清きいりよま
け欽。藤垣弟よえして。丹波西の銀山のう
なり。志うふよ。け國よ同名ありとて。龍欽も
お記と。名取ともるハ志ひごとなり。まさ類

備中名考附十

聚よ。

志うふの山結あひなる梅を万代傳へてまほひふさされ
け欽字も引くれど。け國の浪山字よ免る龍
欽よ。是も丹波なる字よ免るなり。

これら此かみも。石根山。秋寐是も。け國の
名取とまると。その取とあなぐり。音高
山ハ。逆江の名取なりと。け國よ引。音永井
と。まづ國此名取とす。新たぐひ。於多ッれ
ど。まのみにハとて。
筆とけみとて。

文政五年^{壬午}三月刻成

玉松園藏

